

第2回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 平成30年11月18日（日） 10時～12時
- 開催場所 我孫子南近隣センター
- 参加者 18名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、柏木市民生活部長
増田環境経済部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他管理職12名
- 懇談要旨

市民：1点目は前にも質問しました、常磐線の東海道線への乗り継ぎの件について何か進捗がありましたら教えてください。

2点目は、成田空港に行く際成田線を利用していますが、時間帯によると思いますが、乗り継ぎがうまくいかないことがあります。また、成田から東京に向かう場合、成田線の利用者が非常に少ないと思います。我孫子はインバウンド政策が遅れているのかと思いました。

最後に、台風24号の影響で我孫子市にも大規模停電が発生しました。その際市のホームページも更新されることもなかったですが、我孫子市としてその辺の対応をどう考えているのか。以上3点について質問します。

企画財政部長：1・2点につきましてJRに対し要望をしているところですが、現状として、直流・交流の問題や、高崎線・宇都宮線なども乗り入れがあり、本数も限られていたり、ダイヤの問題など様々な課題がありますが、引き続き要望していきたいと思います。特別快速の我孫子・天王台への停車なども要望しています。

成田線への要望も皆様からいただいているところですが、乗り継ぎ時間短縮など、出来そうな部分からでも改善されればと思いますので、引き続き要望していきます。

市民生活部長：台風での大規模停電での対応につきましては、当然市の職員は夜も待機して対応に当たっていました。東電の情報につきましては、あれだけの大規模停電でしたので、東電のホームページにもアクセス障害があり、情報が得られませんでした。連絡手段としてホットラインはありましたが、復旧時期など市民が知りたい情報は得られなかったため、ホームページや防災行政無線などの活用ができません

でした。停電事故後すぐに、東京電力と現在の協定書を見直して皆さんが欲しい情報が取れるようにするため話し合いを始めました。

市 民：根戸地区の防災無線が無くなってしまったが、いつ頃建てられるのか。

市民生活部長：根戸地区に建てられる適地が無くなってしまったことから、来年度本町3丁目から根戸方面に向けて飛ばす方法をとるための工事を予定しています。

市 長：JRとの意見交換は定期的に行っています。12年前は成田線8駅の乗降客数が23,000～24,000人ありました。これは当時の天王台駅1駅の乗降者数と同じでした。今では成田線で20,000人まで減少してきています。要因としては沿線の高校が2校無くなったことや、東京まで行くサラリーマンの数が減少したりしたためなど、毎回同様な話をさせていただいて申し訳ありません。JRとしては要望に対して、必ずこの乗降者数の減少を話してきますので、難しいのですがこれからも沿線首長と共に要望活動していきます。

常磐線については、震災後福島県内の路線がまだ開通していない為、特急電車の利用客も減少している状況です。福島の復興を支援するとともにJRに要望をしていきます。

成田へのアクセスについてですが、千葉支社と東京支社と大きく2つに分かれていることから連携してもらい、理解していただくことも大変ですが、沿線の首長さんたちと、まず乗り継ぎ時間の短縮をしてもらうなど優先順位を付けてお願いしているところです。

我孫子市単独でインバウンドを進めることは難しいと思います。我孫子市や東葛地域への旅行者はほとんどが日帰りです。我孫子市をPRするために東京駅の前にあるキッテという観光PR場所にパンフレットを置いています。最近よく外国の方に持ち帰っていただいています。我孫子に来ていただくまでにはなっていません。

今後も周辺自治体と一緒に活動していきたいと思っています。

市 民：我孫子駅構内にやっとエレベーターが2020年から工事が始まる目途がついたことに感謝しています。

第4小学校の通学路になっている白山跨線橋の工事と来年3月からマンションに463戸、戸建が64戸入居が始まり通学児童が増えると思いますが、通学路となる356号の歩道が狭く危険です。安全対策はどのように考えていますか。

我孫子駅の西側地区の人からは、駅に西口改札口を作って欲しいといった意見をよく聞きますが、設置するためのご努力をお願いできないかということです。

市長：我孫子駅のエレベーターについては、高齢者の方だけではなくベビーカーを押し込んだ人たちからも多く意見をいただくようになりました。ご存知の通り8年前に約20億円かけて工事をしようとしたのですが、残念ながら当時は断念せざるを得なかった。その後、新木駅・湖北駅とエレベーターを設置してきました、次はもう一度、我孫子駅にということでJRと協議した結果、進捗がありまして、設計後工事に着手する予定が出来ました。

白山の跨線橋は年明けには工事着手できると思いますが、安全のため電車の走っていない時間帯と全面通行止めとした集中工事として行う事になると思います。

マンションと戸建住宅の入居が始まる来春からの通学路の問題ですが、320戸の内約1/3の世帯で学校に通学すると見込んでます。教育委員会と学区の見直しをしまして、根戸小・第1小への割り振りをして第4小学校への枠に余裕を持たせた振り分けが終わりました。そんな中、国道356号の歩道の安全対策についてですが、まず、歩道の拡幅は用地を取得しなければならないことや管理が県であったりすることから難しいと思いますが、ガードパイプを設置するなどの方法は、県に話していきます。

我孫子駅西口改札の設置につきましては、昔JRに皆様の声を届けてあります。

この工事については、おおよそ30～40億円かかり全額地元の負担の工事となります。これだけの負担をしてまで西口改札口が必要なのか。優先順位を考える必要があります。まず、エレベーターを設置していきます。

市民：若松地区の雨水対策工事についてですが、自治会の中でいくつか要望がありまして、市からの告知が遅いとか、工事車両の安全性の問題とか、騒音のことなどについて非常に住民がセンシティブなっています。何かあったときにすぐに連絡がつくように業者に対して、指導に努めていただきたい。

インバウンドについての意見ですが、ニュースなどでもマナーが悪く困っている状況を多々見受けます。市としてインバウンドを進めるのではなく、市民や周辺の皆さんが楽しんでお金を落としていただけるようなまちづくりを目指していただきたい。

文化交流拠点施設についてですが、運営のことでP F I も検討の中にありますが、実際働く人は、人材派遣会社を利用してコストを下げる目的だけのような運営ではなく、地元の方々に楽しく働いていただけるような、地元が潤いながら出来ることを考えていただくようお願いします。

建設部長：若松地区の治水工事では、皆様にご迷惑をおかけしております。毎年全体説明会を行っていますが、予定通りいかないこともあります。明日、早速請負業者が決まった段階で、地元の皆さんが分かるように説明するなど担当者に指示いたします。

市長：最近、我孫子市内でも外国の方を多く見るようになりました。高齢化が進む中では、ある程度外国人に手伝ってもらう必要があるかと思っています。そういった現実の中で、例えばゴミ出しなど生活するうえでのいろいろなことにきちっと対応していきたいと思っています。

文化交流拠点施設の整備・運営方法ではP F I 方式を検討いたします。建設については、なるべく多くの民間資金を投入できないかと思っています。また、運営につきましては、我孫子市民をどれだけ活用できるかを意識しながら考えていきたいと思っています。

市民：財政調整基金についてですが、星野市長となって最大30億まであった基金が最近減少傾向にあるようだが、何かあったときに対応できなくなるので、何とかうまくやっていただきたいことと、今後どのようにやっていきたいのかお尋ねします。

市長：財政調整基金は、12年前市長を引き継いだ当初は5億でした。ここまでののかということで、国県に出向き交付金を多くとることに積極的に活動してまい

りました。その結果、借金としては30億増えています。これは、これまで耐震工事・学校のエアコン設置や水害対策に対して前倒しで進めてきた結果です。

財政調整基金は現在20億円ですが、今年度も台風により街路樹が倒れたり農業者被害があったことから少し取り崩す予定です。今後も積み立てたり取り崩したり調整しながら行っています。

市民：つくし野地区にも外国人が多く住んでいます。クリーンセンターで作成しているごみ出しカレンダーの外国人向けを渡したところ非常に喜ばれました。

市として、シルバー人材センターなどから外国語のできる人材を募集して対応していったらという提案です。

二つ目は、つくし野にある住宅展示場が廃止になったら将来市として活用する予定があるのか、お尋ねします。

三つ目は職員の人件費が、人口13万人都市の割には高いのではないかと。もう一つは新庁舎建設計画はあるのか。以上3点質問いたします。

環境経済部長：クリーンセンターでは現在4か国語に対応したものを作成しています。

最近ではベトナムの方が多く住まわれているということなので、ベトナム語のものを作成して配布しております。今後も、国際交流団体（AIRA）の協力を得ながら必要に応じて新たな言語に対応していきたいと思っております。

市長：特にベトナム人が多く通っている不動産屋さん・日本語学校にも協力していただけて配布しています。

総務部長：人件費についてですが、これまでの職員の採用数が一定でなかったことにより、職員構成の歪みで、平成27年度には県内で職員平均年齢がトップになりました。平均年齢が高くなれば結果として他市と比較し、給与が高く公表されます。

ただし、人件費の削減策として職員数の適正化を図るため、977人いた職員を851人に減らすことや、他市に先駆けて、2%から4%の給与カットも実施しています。

職員の給与削減により市民サービスが低下することはありませんので、ご理解い

たきますようよろしく申し上げます。

市 長：平均年齢が高いことから高くなっています。市独自の給与表の影響もありましたが、こちらも周りの市町村と同様な給与表になりつつあります。徐々に落ちてくると思います。職員数のカットと給与のカットを職員に理解してもらいながらこれまで来ています。市民からは給与が高いと言われぬようにサービスの向上に努めるよう常に話してきています。

6号線沿いの住宅展示公園場所については、市として活用することや市の用地とすることは、現在予定していません。賑わいが作れる場所として民間事業者に依頼して作成した結果、手賀沼沿いが一番いいということですので、案を変えることはありません。

市役所の新庁舎建設の話も、最近市民の方からお話を伺うようになりました。

市 民：市の職員の給与は決して高いとは思いません。他市と比べてもしっかり仕事をしていると思います。

市 長：職員のモチベーションを下げるようにしないでというご意見ありがとうございました。

市 民：文化交流拠点へのアクセスを充実していくように、一緒に検討していただくようお願いします。

加納治五郎を東京オリンピックと結び付けて、もう少し盛り上げていただきたいと思います。

市 長：あいバスが走りだしたり、土日だけ運行しているバスもありますが、今後さらに検討したいと思います。

柔道家として世界的に有名な加納治五郎師範は、我孫子では教育者としての実績が大きいことと、別荘があったことですので大河ドラマなどに我孫子が取り上げられるのは難しいのかと思います。

ただし、聖火リレーのコースとして復興した布佐地区・山科鳥類研究所・日本唯

一の鳥の博物館前から、加納治五郎師範の別荘跡地前の3か所を子どもたちに走ってもらうようなコースを千葉県に要望しています。

市 民：我孫子市のバリアフリーの問題について、道路・商店・公園・公共施設など調査研究しているグループですが、本日は2点について質問・要望をします。

まず、障害者用のトイレについてですが、2012年に国交省が従来型のトイレの機能の分散化について示されました。これは、障害者用トイレの、トイレ・オストメイト・おしめ替え・幼児用いすなどの機能をそれぞれ分散することです。このことにより、一つの機能を利用していても他の機能の利用者が待つことなく利用できるということになります。ぜひ、考えていただきたい。

2点目は歩道のバリアフリーについてです。改善はされつつありますが、どうしても拡張などできない箇所などはあるかと思いますが、356号を中心に我々ももう一度調査しますので、今後のため、市と協議していき出来る出来ないなど情報を提供していただきたいと思います。ぜひ検討してください。

市 長：ご協力ありがとうございます。公共施設につきましては、建て替え時に取り組んでいるところですが、市役所庁舎へのエレベーター設置については建物が古いことから既存不適合になる可能性があります。

公園のトイレのバリアフリー化は、今年度天王台西公園内で実施しました。歩道拡幅のためのセットバックは、地主さんの了解を得るのも大変ですが、了解された場合でもなかなか継続して、市の予算措置していくのも他の事業などとの兼ね合いもあり、優先順位を考えながら進めることとなります。お話にありました、356号線はご存じのとおり、県が管理している道路ですので、主体は県となります。子どもたちからも通学路の安全策をなどという意見をいただいています。電柱の移設を民地にお願ひできないか、ガードパイプを設置出来ないかなど、協議させていただき県に要望していきたいと思います。これからもご協力よろしくお願ひします。